

湖東中学校3ヶ年計画 <26年度学校評価>

学校教育目標 「夢の実現へ向け 見通しを持って、今を充実して生きる」生徒の育成
学校運営の重点

*各分掌で重点項目について評価(ABCD)<教職員の自己分析>

- 1 PDCAサイクルの学校運営
- 2 保護者、地域との具体的連携(18歳の巣立ちの共有)
- 3 教職員の指導力向上(個として、組織として)～生き方考える学習活動の実践を通して～

教育理念

人は自分のためだけに
生きるのではない
世のため人のためになる

ふるさとを思い
日本の心を
大切にする人

3月3日

実態	ミッション	目指す姿
・素直で人つこい生徒が多い。 ・受け身の姿勢の生徒が多く、自ら考え行動できる生徒が少ない。	◎夢や希望を持ち、その実現に向け、日々を充実して生きる生徒	
・相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりするのが苦手な生徒が多い。	・地域を思い、地域の行事等に積極的に参加する生徒	
・全校集会や表彰等で返事の声が少ない	・常に場に応じた身なりができる生徒	
・宿題はするが自主的に予習・復習に取り組む生徒が少ない。	・地域や学校で適切に挨拶ができる生徒	
・夢や目標を持っている生徒が全園、県に比べ少ない	・常に熱々掃除が出来る生徒	
・学力が低く、不適応生徒が多い	・自分らの目標を持ち日々学習に努力する生徒	
・個々人は、教育活動に、まじめに一生涯懸命に取り組む教職員が多いが、組織として、ビジョンや目指す方向性が明確でない。	・自分らの3点固定が出来る生徒	
・生徒や保護者、地域に対し、マイナスイメージがある。	◎プロフェッショナルな教師集団	
・仕事に多忙感を感じたり、スケジュール管理が苦手な者が多い。	・各教科の授業において学習規律や基礎基本を定着させ、生徒主体の考える授業実践を行っている	
・問題行動等への対応が、見通しがなく組織的に行われていない。	・生徒指導に於いて集団指導はもとより個人指導においても、生徒・保護者に適切に対応できる	
・教科会が機能しておらず、授業づくりが個人任せになっている。	・校務分掌を学校運営の方針に従い、見直しを持ち企画立案、実践が出来る	
・PTA役員は、学校教育を理解し、非常に協力的である。役員以外のPTA会員の意識が低く、PTA研修会や参観日での学年会・学級会等の出席率が低い。	◎学校運営と連動したPTA活動	
・池ノ端応援団、湖東グリーンゾーン、同窓会等、学校に対する理解があり、協力的な地域資源があるが、十分活用できていない。	・学校運営の方針を理解し協力的なPTA活動	
・県教育センター、鳥取大学、3つの高等学校、2つの支援学校、4つの小学校があり、様々な連携しているが、理念の共有がなく、体系化されていない。	◎「18歳の巣立ち」を目指した、具体的連携	
	○小中高大ととの縦の連携	
	○保護者、地域との横の連携	

26年度		重点項目		学	特	生	総合	肯定評価コメント	課題コメント	評議員コメント	学校関係者評価委員コメント					
生徒	1地域に貢献する活動	・地区運動会への参加(1年)	・きらっと大作戦(各部活動)	A	B	B	B	1: ○1年生は活躍したが、運動会1年生のみでなく、部活ごとの参加はどうか。○まずつこ語り実行委員会で作る気ある生徒ばかりなのを見ては、もうパワーをもたえる活動である。○地域貢献の場として、とてもよい。差別的に取り組んでいると評価ももらった。○地域からおれを言われた。継続が必要。 2: ○私たちの道徳、生活ノートの活用の仕方が分かった。○私たちの道徳を授業では活用できたが、目標設定、振り返りができていない。 3: ○生徒会ががんばっているが、委員会・学級等学校全体に伝わらない。○執行部員はともよく動いているが、全校生徒の取り組みとなっているかが課題。 4: ○3点固定の大切さはよく伝わっているが、実行できない。家庭の協力も得ながら推進していきたい。○学校としては家庭に効果的な呼びかけができています。	1: ▲グリーンゾーン各支部の取り組みに参加を▲参加してもさわやかに挨拶を返す生徒も少なく気持ち盛りが盛れない。▲地域へのPR不足。 2: ▲週目標設定の時間確保が難しかった。▲定期的な振り返りの場の設定が必要。金曜日の終学活で5分程度時間を設け、1週間の振り返りを行う。 3: ▲「みそあじ」の周知が低く、それぞれ目指す基準が明確でなかった。▲あいさつができない。 4: ○学習開始時刻の固定では、学力向上部としてももう少し働きかけをしていきたい。▲生徒、家庭により差がある。家庭との連携をどのように図るかが課題。▲さらなる定着に向け、学級・学年での取り組みが必要。	①3カ年の計画表と1年間のPDCAの取り組みはともよい。学校全体の目的意識が明確になり生徒全体の平均値を上げるのに効果が大きい。これに並行して、生徒の学力だけでなく、生徒一人一人が持つ才能・能力・興味・関心を見つけて、それを伸ばす指導もお願いしたい。 ②3カ年計画表は、見通しが持てる。どこに力を入れていけば良いのか焦点が絞れる。「見える化」でもよい。 ③26年度自己評価の課題を来年にどう生かすかが大事。より具体的にどう取り組んでいけば良いかを検討すること。基本アンケートの結果を次の3つに分けて 1)教師に問わないといけないもの 2)生徒に問わないといけないもの 3)保護者・地域に働きかけないといけないもの 例 基本アンケート「授業では、自分の考えを伝えたり、説明したりすることができている。」 →教師に問わないといけないもの > 学習のめあてを明確にして授業を行い、考えを深めさせる場面設定をきちんと教師が行っているか。 ④地域連携では、心のボランティアや民生委員は子どもたちの顔を知ることや大事と考えている。子どもたちの顔が見える関係をまず作ってほしいと週2回あいさつ運動をしている。 ⑤各階の掲示物を見ると非常に工夫してあり関心する。特に3年生が後輩に送った学習に対する姿勢や勉強の仕方のメッセージはともよい。3年生にとってもいい振り返りになったと思う。 ⑥ただ、いろんな取り組みを見ると生徒会が行ったとしても結局は教員の手がかかっている。教員がかわることも多すぎているのではないかと心配する。一何のために調べるのか、ねらいをきちんと持って調べ物や掲示をしないか、教員の多忙化につながっているのではないかと切に捨てることも大事。 ⑦自分の業務・分掌の見直しをすることは大事。 ⑧3カ年計画の最終年度の28年度が正念場で集大成となる。3年後のゴールを見通して1年ごとに成長していけば良いと思う。	①評価指標をすべて数値目標にすべき。例えば90%以上ならA あいまいにしない。教員が話し合っって評価してもそれは評価ではない。生徒の評価、保護者の評価、教員の評価の3つを分析して数値目標を明確にすることが大事。外部から見基準が明確になるように数値目標を決めておくこと。 ②遅刻が多いことについて、社会に出て時間が守れないようでは通用しない。あいさつ、時間、身だしなみが何より大事。心構え等本人に伝えたり、時間を守ることの大切さを文書で出したりすることも考えられる。小中学校ではスマールステップで目標を与えることが大事ではないか。 ③小中学校では、情報収集が内向きで受け身である。キャリア教育重視という割には、自分たちが企業や会社のことをもっと研究することが大事である。教員がもっと社会を知り、もっと企業や会社研究をして子供たちに教えることが大事。 ④2045年問題(人工知能が人間知性を超えるという予測)。今の小学校4、5年の児童が直面する問題。だから、小中学校でのキャリア教育は大事である。遠近両用眼鏡が必要。将来のことを考えて今の子どもへの指導にあたるべきが大事。 ⑤地方創生と言われており、鳥取は喫緊の課題だ。もっと小中学生が議論することは大事ではないか。世の中の動きを察して子どもたちの教育にあたること、教員が社会とのつながりが疎い。もっと社会を知り、子どもたちに指導してほしい。 ⑥小中高と児童生徒の発達段階によって課題が違ってくる。発達段階を見通して共通の課題を探って追究していくことが大事ではないか。					
								2 私たちの道徳、生活ノートを活用した目標設定と振り返り	A	O	B	B	1: ○道徳で学年で授業研はよかった。教科では、講師研などを通も教科で考えていきたい。○学年単位で行ったため、じっくりと教材研究ができ取り組みやすかった。○計画的に行えた。外部講師に指導してもらい、よい研修となった 2: ○道徳では、どのように主発問を考えていけばよいのか分かった。○特別支援教育では、どのような学校があり、どのような進路指導をしていけばよいのか分かった。 3: ○自己申告書に書いたことをどう具体化・行動化するのかが明確になる。○見通しが持ちやすくなった。3年間でどう教員・生徒としてスキルアップできているかは疑問である。○複数のアンケートを統合し、集計でも電子化も図らねばならない。さらなる設問の統合が必要である。	1: ▲年に2回は、指導案を書いていきたい。(教科・道徳)▲ミニ校内研に講師を呼ぶのであれば、「ミニ」ではなく全体の会にしてはどうか。 2: ▲特別支援、教育相談、研修会(QUを含む)は、実施時期の再考が必要。▲会をするだけではなくその検証が必要。 3: ▲アンケートの回答が本当に正しいのを見極めることが大切。他の評価指標も必要。▲見直しは必要で、やってみて修正すればよい。意識として、学年・教科・部活は当然。あと1役を持つ意識を持ちたい。		
								3 生徒会を核とした自治的活動	B	B	B	B				
学校・教職員	1全体授業研究会年2回(道徳、教科) +ミニ校内研(道徳)	・指導案作成年2回(道徳、各教科)	A	A	A	A	1: ○道徳で学年で授業研はよかった。教科では、講師研などを通も教科で考えていきたい。○学年単位で行ったため、じっくりと教材研究ができ取り組みやすかった。○計画的に行えた。外部講師に指導してもらい、よい研修となった 2: ○道徳では、どのように主発問を考えていけばよいのか分かった。○特別支援教育では、どのような学校があり、どのような進路指導をしていけばよいのか分かった。 3: ○自己申告書に書いたことをどう具体化・行動化するのかが明確になる。○見通しが持ちやすくなった。3年間でどう教員・生徒としてスキルアップできているかは疑問である。○複数のアンケートを統合し、集計でも電子化も図らねばならない。さらなる設問の統合が必要である。	1: ▲年に2回は、指導案を書いていきたい。(教科・道徳)▲ミニ校内研に講師を呼ぶのであれば、「ミニ」ではなく全体の会にしてはどうか。 2: ▲特別支援、教育相談、研修会(QUを含む)は、実施時期の再考が必要。▲会をするだけではなくその検証が必要。 3: ▲アンケートの回答が本当に正しいのを見極めることが大切。他の評価指標も必要。▲見直しは必要で、やってみて修正すればよい。意識として、学年・教科・部活は当然。あと1役を持つ意識を持ちたい。								
							2 2校内研修会(道徳、特別支援教育)	A	A	A	A					
							3 4ステージ2サイクルの学校運営	B	C	B	B					
保護者・地域・外部	1湖東中教育フォーラムの開催	2KMG	・組織改革(企画委員会、6委員会)	A	C	B	B	1: ○講演はとも分かりやすくとてもよかった。もっと多くの保護者にも聞いて欲しい。 2: ○3年間で物事を考え見通しが持てるようになった。具体的に活動できるように必要がある。○組織がすっきりしてきた。もう少し分りやすく、見直しは必要で、やってみて修正。教科部会もあり。○小中も含めてどのような生徒を目指すのかで、明確な目標ができた。教員同士が顔を合わせることが必要。 3: ○グリーンゾーン広報部との座談会、池ノ端応援団によるリーダー研修講演などを実施。○学校便り、HP、生徒会便りなど情報発信に努めることができた。 4: ○先輩の姿が刺激になり、目標になった。実物を通して、その学校のことがよく分かった。○高校生の姿や高校生の作品が直に見られて良かった。○進路フォーラムでは、高校4校、文化祭では高校3校と連携できた。○高校生の姿や作品に触れ、その高校について知るきっかけとなりとてもよかった。	1: ▲参加への働きかけをどのように行っていくかが課題。分散会の参加が少なく、いかに保護者を巻き込んでいくかが課題。 2: ▲小中中で合同の教科会等があってもよい。▲KMGの分掌が多すぎず、取り組むことも多すぎる。大きな柱を作り、統一して5校で取り組む方がよい。▲KMGの担当と学校での分掌の連携、そしてどう取り組めばよいのか分からない。 3: ▲頻りにHPを更新されていたが、学力向上部としての更新はあまりできなかった。▲説明が不足しており職員も理解できていない。今後の取り組みに期待。 ▲高校生の姿や高校生の作品が直に見られて良かった。どの高校とどのような連携を図っていくのが今後の課題。							
								3 3学年計画作成								
								4 3点固定の共有								
保護者・地域・外部	3PTAグリーンゾーン、池ノ端等との具体的連携	・HP、学校便り等による積極的情報発信	B	B	B	B										
							4 4高等学校、県教育センターとの連携	A	B	B	B					
							・進路フォーラム、文化祭等交流									

自分で考え、自分で判断し、自分で行動する生徒

18歳の巣立ちを目指して

